

# オハイオ州における Family & Consumer Sciences の実施状況 (第2報)

山 田 綾

愛知教育大学家政教育講座

## Family & Consumer Sciences Education of Dublin Scioto High School in Ohio State

Aya YAMADA

(Department of Home Economics Education, Aichi University of Education)

### はじめに

アメリカ合州国では、1980~90年代に若者の学力低下や高度情報化、職業技術の高度化が叫ばれ、世界競争に打ち勝つための教育政策が提言されてきた<sup>1)</sup>。ハイスクールではアカデミック教科が重視され、多くの州で初等段階から標準テストを課すようになった。

生活や職業技術の変容、教育政策の変化は、職業教育の中に位置づけられてきた家庭科教育に多大な影響を及ぼすものである。1994年に家政学の名称が Home Economics から Family & Consumer Sciences に変更されたことに象徴的であるように、アメリカの家庭科教育は理念的にも実践的に変化しつつある。

本研究では、アメリカの中で家庭科カリキュラム研究に先進的に取り組んできたオハイオ州を取り上げ、家庭科すなわち Family & Consumer Sciences Education の実施状況や変化を明らかにし、家庭科教育のあり方を検討する一助にすることを目的とした。

第1報では、現在中等教育レベルで州教育局が推奨している Family & Consumer Sciences のプログラムと10年間の履修状況の変化について、州教育局家庭科担当者の面接調査と実施報告書・カリキュラムガイドなどを用いて明らかにした<sup>2)</sup>。90年代に州教育局が開発した Family & Consumer Sciences プログラムは、個人・家族の生活と仕事を扱うプログラムと職業準備プログラムの2つからなる。前者は1990年代に思春期の課題に就いて、生徒が問題解決などのプロセス・スキルを習得しつつ、自尊感情を培いながら、自己の現在や将来の仕事、個人・家族の生活を探求するプログラムへと改革されてきた。必要なスキルを位置づけたカリキュラムが開発され、「どのように学ぶか」が検討されてきた。その結果、10年間に履修者数は増加していた。特に、GRADS と名づけられた10代で親になる生徒のためのプログラムは、内容が豊かに組み換

えられ、対象者も女子のみから男女生徒になり、履修者数は10年間で約1.5倍に増加していた。なお、98年度の男子の履修者は全体の1割であった。

他方、後者の職業準備プログラムは、労働世界の変容やアカデミック・スキルとの統合という動きに対応しきれず、履修者数が減少していた。第1報では州教育局が示した Family & Consumer Sciences Education の使命とプログラムの内容、プログラムの履修者数と10年間の変化を概括的に明らかにするに留まった。

では、実際に、学校ではどのような履修基準のもとに、家庭科関連のコースが開講され、どのような授業が実施されているのだろうか。また、アカデミック教科の重視により、教育課程はどのように変化したのか。生徒はそれらの変化をどのように感じているのか。あるいはこれらの変化は生徒にどのような影響を及ぼしているのか。これらの点については、各学区や学校の教育課程を取り上げて検討することが必要である。特に、オハイオ州の場合は「ローカル・コントロール」と呼ばれ、ハイスクールの卒業要件や教育課程は各地方学区の教育委員会により定められている<sup>3)</sup>。

そこで、第2・3報では、具体的に地方学区の家庭科のコース・オブ・スタディと学校の実践事例から検討することにした。第2報ではハイスクールの事例としてダブリン・サイオト・ハイスクール (Dublin Scioto High School) を取り上げることにした。第3報ではミドルスクールを取り上げる予定である。なお、上述したように、学区によりハイスクールの卒業要件などは異なっており、本稿で取り上げるのはオハイオ州の1事例にすぎず、限界があることを記しておきたい。また、本稿は、1999年9月に収集した報告書や資料と面接調査、授業参観をもとに執筆した。面接したのは、オハイオ州教育局で Family & Consumer Sciences を担当している Sharon Enlight<sup>4)</sup>、ダブリン・サイオ

ト・ハイスクールの家庭科教師 Jeniffer Workman と Amanda Canary, ESL のバイリンガルスタッフとして非常勤で働いている Thosi Smith である。

## 1. ダブリン・サイオト・ハイスクールの特徴

ダブリン・サイオト・ハイスクールは、コロンバスの北西にあるダブリン学区にある。ダブリンはコロンバス郊外の住宅地で、学校の年次報告書には中流の上の階層が多いと記されている。ダブリン学区には、2つの4年制ハイスクール (Dublin Scioto High School と Coffman High School), 4つのミドルスクール, 8つのエレメンタリー・スクールがある。

サイオト・ハイスクールは1995年に開校したばかりの新設校である。コフマン・ハイスクールの方は、伝統校であり、学校規模も大きく、後述するように大学進学率も高い。

1999年度報告書によると、サイオト・ハイスクールの生徒数は1260人、教師数が98人、カウンセラーが4人である。大学進学率は、4年生大学に進学する者が70%、短期大学に進学する者が14%で、合計84%が大学に進学する。なお、コフマン・ハイスクールは、約95%が大学に進学するということであり、オハイオ州の大学進学率の平均が約40%であることを考えると、この学区の進学率は非常に高いといえる。

この学区で特徴的なのは、生徒の多文化状況に応じて、英語を母国語としない生徒のためのプログラムがある点である。一つは、バイリンガル・エイドとして、6人のスタッフが非常勤で雇用され、日本人をはじめ他国の出身者に様々な援助がなされている。例えば、親と教師の間で通訳をしたり、生徒たちの学習援助などである。もう一つは、Study Hall という時間を設定し、英語が母国語でない生徒はこのクラスに来て、勉強すると1年間で1単位取得できる。英語が母国語でない生徒の出入りも自由であるが、単位にはならない。生徒は、必要な時にバイリンガル・エイドのスタッフの支援を受け、宿題やテスト勉強をこなす。また、日本語のできる生徒が来て、日本人生徒と話したり、援助したりもする。このような制度は、コロンバスなどにもある。ダブリンの場合、工場や会社の誘致により、日本人家族をはじめとする外国人就労者家族が増加したために、1980年代の後半から始まったという。

## 2. ダブリン学区のハイスクール卒業要件と教育課程

先に述べたように、オハイオ州ではハイスクールの卒業要件と教育課程は、各学区の教育委員会により定められている。

ダブリン学区の教育委員会により作成されたハイスクールの教育課程に関する冊子<sup>5)</sup>には、ハイスクールの卒業要件として必要な最低限の単位数、大学進学要

件として必要な最低限の単位数、そして開講するコース一覧と各コースの解説などが記されている。

ダブリン学区のハイスクール卒業要件は、表1・2に示すとおりである。表3は、開講コース一覧である。

2つのハイスクールは、これらに基づいて教育課程を作成する。生徒は、英語を除いて、ホームルームクラスで授業を受けることはなく、多学年の生徒が混在して授業を受ける。表3からわかるように、多くのコースが開講されており、この中から必修・選択ともに生徒が選択する。科目によっては履修学年の指定がなされているものもある。また、必修単位の取り方については規定が記されているが、ここでは省略する。

卒業要件と教育課程から気づくのは、以下の点である。

第1に、近年、理数科目とコンピューター教育が重視されつつある点である。ハイスクール卒業要件では、1999年度から2002年度の間、数学と科学の単位数が増加している。1999年度報告書に記されていた卒業要

表1 ダブリン学区のハイスクール卒業要件(2000-2001年度卒業の場合)

教科	学年	9	10	11	12	計(単位)
英語		×	×	×	×	4
数学		×	×			2
科学		×	×			2
社会		×	or ×	×	×	3
健康			×	×		0.5
体育		×	×			0.5
選択		×	×	×	×	7
テクノロジーの選択		×	or ×	or ×	or ×	1
合 計						20

註・2000年度卒業クラスは、オハイオ州の9学年能力テストの数学、読み、書き、公民の部分合格しなければならない。  
・2001年度卒業のクラスは、オハイオ州の9学年能力テストの数学、読み、書き、公民、科学の部分合格しなければならない。  
(DUBLIN COFFMAN AND DUBLIN SCIOTO HIGH SCHOOLS: Course and Career Planning Handbook 1999-2000, p.7)

表2 ダブリン学区のハイスクール卒業要件(2002年度卒業の場合)

教科	学年	9	10	11	12	計(単位)
英語		×	×	×	×	4
数学		×	×	×		3
科学		×	×			2
社会		×	or ×	×	×	3
健康			×	×		0.5
体育		×	×			0.5
選択		×	×	×	×	7
テクノロジーの選択		×	or ×	or ×	or ×	1
合 計						21

註・2002年度卒業のクラスは、オハイオ州の9学年能力テストの数学、読み、書き、公民、科学の部分合格しなければならない。  
(DUBLIN COFFMAN AND DUBLIN SCIOTO HIGH SCHOOLS: Course and Career Planning Handbook 1999-2000, p.7)

表3 ダブリン学区のハイスクールのコース一覧 (1999-2000年度の場合)

<b>APPLIED SCIENCES</b>			038 English Composition	1/2	<b>SCIENCE</b>			
593	Introduction to Technology A	1/2	040 British Literature	1/2	205	Physical Science	1/2	
594	Introduction to Technology B	1/2	042 Contemporary Literature	1/2	207	Chemical Science	1/2	
595	Industrial Tech II	1	044 Global Literature	1/2	209	Life Science	1/2	
5951	Control Technology	1/2	046 Etymology	1/2	211	Earth Science	1/2	
600	Construction Plan/Design A	1/2	050 Writing for Publication I	1/2	213	Systems of the Earth	1	
602	Construct./Servicing Structures B	1/2	051 Writing for Publication II	1	215	Biology I	1	
611	Engineering Graphics & Design	1	052 Public Speaking	1/2	217	Advanced Placement Biology	1	
614	Architectural Design & Modeling	1	053 Broadcast & Video Production	2	236	Chemistry I	1	
618	Product Design and Modeling	1	054 Argumentation & Debate	1/2	238	Advanced Placement Chemistry	1	
620	Problems in Technology	1	055 Yearbook	1	242	Physics	1	
642	Service Learning	1/2	060 Reading & Study Skills	1/2	244	Advanced Placement Physics	1	
676	Life Choices	1-1/4	062 College Reading	1/2	<b>SOCIAL STUDIES</b>			
680	Family Living	1/2	064 Indivi Reading Workshop	1/2	125	Social Studies Survey	1	
681	Parenting & Child Development	1/2	904 ESL Reading & Learning Strategies	1	127	World History	1	
682	On Your Own	1/2	905 Beginning ESL Eng.	1	164	World Studies	2	
683	Foods & Fitness	1/2	906 Intermediate ESL English	1	137	Sociology	1/2	
684	Global Gourmet	1/2	907 Advanced ESL English	1	138	Psychology	1/2	
686	Interior Design and Housing	1/2	908 Indiv. ESL English Instruction	1	161	United States History	1	
690	Conflict Mgt and Mediation	1/2	910 ESL Resource	1	163	A.P. American History	1	
694	OWE (Permission)	1	<b>MATHEMATICS</b>			165	American Studies	2
695	OWE Related	1	326 Algebra A	1	170	United States Government	1/2	
696	OWE Work Study	1	327 Algebra B	1	171	A.P. United States Government	1	
700	Studies in Career Exploration	1/2	328 Algebra I	1	172	Contemporary American Politics	1/2	
<b>BUSINESS EDUCATION</b>			334 Algebra II	1	173	American Foreign Policy	1/2	
408	Introduction to Business	1/2	336 Honors Algebra II	1	174	Economics	1/2	
418	Accounting I	1	342 Geometry	1	175	Computer Sim. in Social Studies	1/2	
420	Advanced Accounting	1	344 Honors Geometry	1	<b>VISUAL ARTS</b>			
425	Mkt./School Store Mgt.	1	360 Transition to College Math	1	760	Art I	1/2	
440	Personal Finance	1/2	371 Precalculus	1	764	Graphics	1/2	
451	Business/Personal Law	1/2	373 Honors Precalculus	1	766	Computer Graphics	1/2	
480	Applied Economics	1/2	376 Advanced Placement Calculus	1	768	Sculpture & Ceramics	1/2	
482	Keyboarding I	1/2	376 Advan. Placement Calculus BC	1	770	Photography I	1/2	
483	Adv. Keyboarding	1/2	388 Applications of Math	1	772	Painting I	1/2	
<b>FOREIGN LANGUAGE</b>			392 Calculus	1	774	Drawing I	1/2	
070	German I	1	382 Computer Applications	1/2	776	Survey, Studio & Tech I	1/2	
071	German II	1	384 Computer Programming	1/2	778	Survey, Studio & Tech II	1/2	
072	German III	1	386 A.P. Computer Science	1	780	Advan. Placement Art Portfolio	1	
073	Honors German IV	1	<b>PERFORMING ARTS</b>			790	Perspectives of the Environment	1/2
078	French I	1	852 Band (Audition)	1	<b>TOLLES TECHNICAL CENTER</b>			
079	French II	1	853 Flag Corps (Audition)	1/2	720	T.T.C.		
080	French III	1	862 Jazz Band (Audition)	1	<b>YOUNG PROFESSIONALS ACADEMY</b>			
081	Honors French IV	1	872 Orchestra (Audition)	1	697	PSEOP	Arranged	
082	Honors French V	1	875 Theatre I	1/2	698	Christopher Program	Arranged	
087	Latin I	1	876 Theatre II (Audition)	1/2	702	Profess. Internship Prog	1-3	
088	Latin II	1	878 Theatre III (Audition)	1	705	Indivi. Profess. Studies	Arranged	
089	LatinProse	1	877 Theatre Tech. & Design (Recom.)	1/2-1	712	Focus on the Future:Building for a Better Tomorrow III	1-3	
090	Honors Latin Poetry	1	880 TTB Chorus	1	<b>LANGUAGE ARTS</b>			
095	Spanish I	1	881 Symphonic Choir (Audition)	1	013	English I	1	
096	Spanish II	1	882 SSA Chorus	1	015	Honors English I	1	
097	Spanish III	1	883 Chorale (Audition)	1	021	English II	1	
098	Honors Spanish IV	1	884 A Cappella Chamber Choir (Audition)	1	164	World Studies	2	
099	Honors Spanish V	1	887 Music History	1	022	Honors English II	1	
100	Japanese I	1	888 Music Theory	1	029	American Literature	1	
101	Japanese II	1	889 Music Appreciation	1	165	American Studies	2	
102	Japanese III	1	<b>PHYSICAL EDUCATION AND HEALTH</b>			030	Honors American Literature	1
103	Honors Japanese IV	1	930 Physical Education (9th)	1/4	034	Advanced Placement Literature	1	
			931 Physical Education (10th)	1/4				
			921 Health	1/2				
			925 intro. to Athletic Health Care	1/2				
			<b>PROFICIENCY / INTERVENTION</b>					
			995 Proficiency Test Preparation	1/2-1				
			942 Tutoring	1				
			969 Academic Skills	1/2-1				

表4 大学進学要件

English			4 credits
Mathematics (Algebra I, Algebra II, and Geometry)			3 credits
Science			3 credits
Social Studies			3 credits
Foreign Language			2 credits
Visual/Performing Arts			1 credit
Art I	AP Art Portfolio	Graphics I	Computer Graphics
Photography I	Painting I	Drawing I	Survey, Studio & Tech I & II
Band	Stage Band	Orchestra	Sculpture & Ceramics
1st Soprano, 2nd Soprano, Alto	Symphonic Choir	Chorale	Music Appreciation
Tenor, Baritone, Bass	Music Theory	Theatre I, II, & III	Theatre Tech & Design
A Cappella Chamber Choir	Music History	Perspectives of the Environment	Broadcast Video

( DUBLIN COFFMAN AND DUBLIN SCIOTO HIGH SCHOOLS : Course and Career Planning Handbook 1999-2000 , p7.)

件と表1を比べると、2000—2001年度卒業生用はテクノロジーの選択1単位が加えられ、科学が1単位から2単位に増え、2002年度卒業生用にはさらに数学が2単位から3単位に増えている。つまり、卒業要件は、表4に示した大学進学に必要な最低単位数に近いものに引き上げられつつある。また、合格が義務づけられているオハイオ能力テストの科目に2001年度卒業生から科学が新たに加えられている。オハイオ州の卒業要件は、語学や社会科を重視し、労働に関するセミナーや4年生自主プロジェクトなどを必修とするボイヤー報告<sup>6)</sup>よりも、『危機に立つ国家』<sup>7)</sup>で示された教育内容の勧告に近いものになりつつある。なお、テクノロジーやコンピューター教育の重視に伴い、99年度に約600台コンピューターが搬入されたという。

第2に、優秀な生徒には、オーナーズ・クラス(特進クラス)が用意されており、能力テストに対応したコースもみられ、能力主義が徹底されている。

第3に、職業教育(vocational education)の位置づけられ方である。従来のように、職業教育コースが別枠で設定されているのではなく、Family & Consumer Sciencesのコースが含まれている応用科学(Applied Science)とビジネス教育の中にみられる。こうしたコース設定には、1990年代にアカデミック教科が重視され、アカデミック・トラックとVocationalトラックの統合が求められるようになったことが反映していると考えられる。キャリア教育は、キャリア教育の研究(Studies in Career Explanation)で行われる。この点について詳しくは後述したい。

第4に、多文化状況への対応についてであり、ESL関係のコース設定とともに、Global Gourmetなどのコース設定がみられる。後者は、Family & Consumer Sciencesの1コースであり、多文化状況への対応についてもこのコースを取り上げ、後で検討したい。

さて、ダブリン・サイオト・ハイスクールの生徒を取り巻く10年間の変化について、ESLのバイリンガ

ル・エイドの一人であるThosi Smithは、重要な指摘を行っている。ダブリン・サイオト・ハイスクールでは、次のような変化が生じているという。

1つは、持ち物などの規則が厳しくなっている。

2つには、標準能力テストの導入により、生徒は主要科目の基礎学力の向上を目指す、進級できないのではないかというプレッシャーを常に抱えている<sup>8)</sup>。

3つには、その一方で、Work to Study<sup>9)</sup>(働きながら学ぶ)ことや社会奉仕が重視されている。

4つには、コンピューター教育の導入である。

5つには、多文化状況の進行である。

以上の中で、5つ目の点を除く4点は、いずれも世界競争への挑戦のための教育政策の一貫として進められているものである。そして、それらは、学校生活を抑圧的なものに行っているといえよう。特に、生徒の多文化状況が進行している中で、小学校低学年からの標準能力テストの実施は、英語を母国語としないマイノリティの生徒たちにとって、進級できないのではないかという大きなプレッシャーとなっていることが全米で問題になっている。生徒の置かれている状況の変化は、また家庭科のコース設定や履修状況にも影響があると考えられ、以下で検討してみたい。

### 3. ダブリン・サイオト・ハイスクールの Family & Consumer Sciences コース

#### (1) ダブリン学区の Family & Consumer Sciences コース

ダブリン学区のハイスクール卒業要件では、Family & Consumer Sciencesは選択科目として応用科学という分野に位置づけられ、10種類のコースが設定されている。表5は、応用科学分野のコースを示したものである。科目によっては学年が指定されている。どのコースも、多学年の生徒と一緒に授業を受ける。

表6は、Family & Consumer Sciencesのコース内容の解説を示したものである。

表5 応用科学のコース一覧 (ダブリン学区1999-2000年度の場合)

コース名	コース番号	履修学年	単位数
<b>Industrial Technology</b>			
Introduction to Technology A	593	9-11	0.50
Introduction to Technology B	594	9-11	0.50
Industrial Technology II	595	10-12	1.00
Control Technology	5951	10-12	0.50
Construction Planning and Design A	600	9-12	0.50
Construction and Servicing Structures B	602	9-12	0.50
Engineering Graphics and Design	611	9-12	1.00
Architectural Design and Modeling	614	10-12	1.00
Product Design and Modeling	618	11-12	1.00
Problems in Technology	620	10-12	1.00
<b>Family and Consumer Science</b>			
Service Learning	642	11-12	0.50
Life Choices	676	9-12	1.25
Family Living	680	11-12	0.50
Parenting and Child Development	681	9-12	0.50
On Your Own	682	11-12	0.50
Foods and Fitness	683	10-12	0.50
Global Gourmet	684	10-12	0.50
Interior Design and Housing	686	9-12	0.50
Conflict Management and Mediation	690	9-12	0.50
Studies in Career Exploration	700	10-12	0.50
<b>Vocational</b>			
Occupational Work Experience (OWE)	694	Age 16+	1.00
OWE Related	695		1.00
OWE Work Studies	696		1.00

( DUBLIN COFFMAN AND DUBLIN SCIOTO HIGH SCHOOLS : Course and Career Planning Handbook 1999-2000 , p.13.)

Family & Consumer Sciences の10コースは、オハイオ州教育局作成の「ハイスクール Work & Family Lifeのプロセス・スキルと学習内容」<sup>10)</sup> (表7参照) に学習内容のコア領域として掲げられている6つを整理して5つのコースを設定し、さらに5つのコースを加えたものである。なお、職業プログラムやGRADSは設定されていない。この学区の大学進学率の高さや地域性によると考えられる。

6つのコア領域とは、表7に示した「人間の発達」「資源のマネジメント」「栄養と健康」「家族関係」「ライフ・プランニング」「親になる」である。

Life Choiceは通年のコースで、前期に「人間の発達」の内容が、後期に「資源のマネジメント」の内容が扱われる。Family Livingは「家族関係」、Parenting and Child Developmentは「親になる」、On Your Ownは「ライフ・プランニング」、Foods and Fitnessは「栄養と健康」の内容が扱われる。

これらの基本コースに加えて、5つのコース、すなわちService Learning, Global Gourmet, Interior Design and Housing, Conflict Management and Mediation, Studies in Career Explorationが設定さ

れている。

Service Learningは、先のSmithの指摘にあった社会奉仕を単位化するコースである。

Global Gourmetは、基本的には栄養と健康の応用コースといえる。しかし、これは、先に述べたダブリンの生徒の多文化状況に対応したものであるとともに、近年の文化・経済のグローバル化や地球規模の環境問題を意識したものといえる。

Interior Design and Housingは、従来の住居領域ではあるが現代的にデザイン理論を基盤とし、歴史的検討なども含むコースになっている。

Conflict Management and Mediationは、他者との関係、葛藤やストレスの調整に関わる主題を探求し、その過程で何らかのアクティビティや実地プロジェクトを体験しつつ、必要なスキルを習得することを重視するコースである。これは、人間の発達の1部とWork & Family Lifeで習得が意図されているプロセス・スキルの1つである「他者との関係」(肯定的関係、他者をケアする関係・効果的コミュニケーション・コンフリクトのマネジメント)や「リーダーシップの役割を引き受ける」に対応したコースでもあると考えられる。

表 6 Family &amp; Consumer Sciences のコース内容一覧

コース	コース内容
Service Learning	本コースは、非営利団体やコミュニティ組織でのボランティア活動を含むものである。生徒は、校外で週 4 時間のボランティア活動を行い、リーダーシップや奉仕などのスキルを身につける。生徒は、教師のスーパーバイズにより、学期の最初の週に 1 度コミュニケーション、意思決定、組織するスキル、責任、他者への奉仕、個人的洞察について議論を行う。経験のポートフォリオと発表が要求される。このコースには、親の承諾が必要である。
Life Choice	本コースは、生徒が自立して生活の責任を果たすのを援助する。自立のためのスキルとして、意思決定、問題解決、食物の選択と準備、被服の構成と購買、子どもの発達、インテリア・デザインが扱われる。相互交流のスキルが、重視される。FHA/HERO という校外活動組織への参加が要求される。このコースの単位数は 1.25 であり、1 年間にわたり長期間行われる。
Family Living	本コースでは、生徒は、デートすること、結婚相手のパートナーを選択すること、子育ての能力をはかること、生活状況を調整することについての意思決定のスキルを開発する。家族のコミュニケーション、夫婦間の調整、家族の危機への対処などが探求される。このコースは、卒業後の自分の暮らしを豊かなものにするための機会を提供することに興味がある若い男女に推奨される。
Parenting and Child Development	本コースでは、生徒は、胎児、新生児、幼児、児童の発達や行動について知るようになる。訓練の方法、障害児の要求、子どもの世話のための選択肢、子どもへの環境の影響などのトピックスも扱われる。生徒は、幼稚園や小学校で小さい子どもを観察したり、一緒に活動したりする。このコースは子どものためのよい環境を提供することに興味がある男女に推奨される。
On Your Own	本コースは、生徒が自立しようとするのを援助するコースである。基本的な生活スキル、例えばお金の管理、アパートの借用と家具の配置、衣服の手入れや製作、資源の購入、キャリアの選択、就職などのトピックスが取り上げられる。
Foods and Fitness	本コースは、外食をしたり、食糧を購入したり、家庭で食事の準備をしたりする時、充実した健康なライフスタイルの選択を行うための学習をする。生徒は、健康で活動的なライフスタイルに関して研究されていることを調べて吟味する。栄養、消費者の決定、ダイエット、食糧問題、便利な食品、あらゆるタイプの食品の健康によい調理などが重視される。このコースと次の Global Gourmet は同じ食物領域であるため、同じ年度に両方は取れないかもしれない。
Global Gourmet	本コースは、健康問題が少ない諸外国の食べ物や健康な暮らしを研究するコースである。主なトピックスは、諸外国の食物、ダイエット、調理記述、ライフスタイルである。環境の課題に影響を及ぼす食物、テクノロジー、消費者の選択に関わって、環境の課題が、検討される。
Interior Design and Housing	本コースは、家庭の装飾や住居の賃貸と購入の手続きを含んでいる。デザインの原理や要素がプロジェクト活動に応用される。色、スタイル、アレンジ、窓、壁、床の扱い、アクセサリーの活用などのトピックとともに、歴史的な住居や建築スタイルなども検討される。
Conflict Management and Mediation	本コースは、葛藤のマネジメントや調整の広範なトピックに焦点を当てる。生徒は、仲間の仲介者の認証を受けるかもしれない。彼らはまた、人格の発達、仲間関係、他者との関わり、ストレスと怒りのマネジメント、個人・家族の問題の解決、学校・コミュニティ・家族生活におけるリーダーシップの役割を引き受けることに関する主題を探求する。仲裁の訓練やゲスト・スピーカー、フィールドワーク、ゲスト・パネラー、仲間や後輩の訓練などといった何らかの実地プロジェクトや体験活動が企てられるであろう。
Studies in Career Exploration	本コースは、生徒が個々のキャリア・プランを開発する際に実現可能なキャリアの選択肢を探求するのを援助するように計画されている。生徒は、職業スキルや必要とされる、人間関係スキル、仕事と家族の役割を調整すること、協同学習、仕事を行う上での倫理の再調査に参加する。生徒は、インタビュー技術、履歴書を書くこと、就職配属試験を実際に練習する。援助者とともにコミュニティでキャリア探求するために、1 週間に 4 ~ 6 時間が要求される。生徒は、自分で交通手段を確保できなければならない。

(DUBLIN COFFMAN AND DUBLIN SCIOTO HIGH SCHOOLS : Course and Career Planning Handbook 1999-2000, pp. 15-16.)

表7 ハイスクール Work & Family Life のプロセス・スキルと学習内容

Work & Family Lifeプロセス・スキル	
仕事と家族の生活のためのプロセス・スキル ・仕事と家族の概念を広げる ・仕事と家族の役割の相互作用の分析を進める ・仕事と家族の責任をマネージする	リーダーシップの役割を引き受ける ・家族を越えた市民権とリーダーシップ ・協同組織 ・社会的条件の評価 ・目的達成のためにプロセスの計画の使用
他者との関係 ・肯定的関係、他者をケアする関係 ・効果的コミュニケーション ・コンフリクトのマネジメント	個人と家族の問題解決 ・課題の解明 ・個人と他者の幸福のための意思決定
Work & Family Lifeのコア領域	
人間の発達… 以下に関連する実践的問題に焦点化する。 ・自己と他者のために責任を取る ・自己と他者のための自尊感情をつくる ・家族と仲間との関係 ・ストレスとコンフリクトをマネージする ・キャリア・プランニング ・責任のある親になること ・ヒューマン・セクシュアリティ	
資源のマネジメント… 以下に関連する実践的問題に焦点化する。(以下、省略)	
栄養と健康… 以下に関連する実践的問題に焦点化する。(以下、省略)	
家族関係… 以下に関連する実践的問題に焦点化する。(以下、省略)	
ライフ・プランニング… 以下に関連する実践的問題に焦点化する。 ・高等学校以降の生活設計プランを立てる ・自分と他者をケアする ・相互関係をつくり、十分に機能を果たす家族をつくり、維持する ・キャリアの成功を保障するような計画をする ・個人とキャリアの責任をコーディネートする ・目標を達成し、食物、被服、住居の要求にあわせた資源を管理する	
親になる… 以下に関連する実践的問題に焦点化する。(以下、省略)	

(Ohio Department of Education, Division of Vocational and Adult Education, Family & Consumer Sciences, *Work And Studies: An implementation handbook for administrators and teachers*, 1998, pp. 10-11.)

Studies in Career Exploration は、キャリア・プランニングのためにコミュニティに出て体験しながら、本格的にキャリア探求を行うコースである。

Conflict Management and Mediation と Studies in Career Exploration の2つのコースは、ハイスクールの生徒にとって重要な課題をアクティビティや実地研究を伴って探求的に学ぶことを課している。

しかし、これら5コースのうち、Global Gourmet 以外のコースは、サイオト・ハイスクールでは開講されていなかった。

以上の事から、ダブリン学区の Family & Consumer Sciences のコース・オブ・スタディは、基本的には州教育局作成の枠組みに即したものであるといえる。そして、以下の点に、注目しておく必要がある。

第1に、スキルの習得の仕方についてである。例えば、暮らしに関する一般的な学習は Life Choice で行われ、生徒は自立した生活をおくれるように援助されるが、生活領域の内容全般が扱われており、日本の「家庭一般」にあたるものといえよう。そこには、自立のためのスキルとして、食物の選択と準備、被服の構成と購買、子どもの発達、インテリア・デザインのみならず、意思決定、問題解決、相互交流などが位置づけられているが、学習の過程で必要なときに状況に埋め込まれた形で習得されることが目指されている。

第2に、Global Gourmet の設定である。現代を生きるには、食物分野に限らず、グローバル化や、多文化

の視点で暮らしを見つめなおすことが必要となる。オハイオ州教育局が90年代に作成した能力表 *Ohio's Competency Analysis Profile: Work and Family Life*<sup>11)</sup>には、グローバル化を意識し、多文化主義の視点で書かれた能力が掲げられており、記述は特に食物領域に多い。オハイオ州教育局が提案しているように、Global Gourmet のようなコースを開講することは重要である。このコースの課題については、後でサイオト・ハイスクールの授業を取り上げて検討したい。

第3に、キャリア探求のコースの設定と、職業準備に関わる内容がいくつかのコースに含まれている点である。Family Living では、「卒業後の自分の暮らしを豊かなものにするための機会を提供することに興味がある若い男女に推奨される」と記されており、家族教育に関連する職業準備をも含んでいると言える。また、Parenting and Child Development においても、子どものためのよい環境を提供することに興味がある男女に推奨されており、このコースも職業準備を含んでいる。

第4に、Work to Study についてである。アメリカでは、1990年代にアカデミック教育と職業教育の統合が求められてきた。「1990年米国職業教育法修正」(The Carl D. Perkins Vocational Education and Applied Technology Education Act of 1990, Public Law 101-392)では「コースを一貫した順序に配置したプログラムの中でアカデミックな教育と職業教育が統合」す

ることが求められ、「学校から仕事への機会の保障法」(The School-to-Work Opportunities Act of 1994, Public Law 103-239)では、Work to Studyが強調され、地域に出て、実際に活動しながら学ぶことが重視された<sup>12)</sup>。オハイオ州では10年前は職業コースとアカデミック・コースは2つのトラックとして明確にわけられていたが、近年は両者の「統合」が強調され、「状況アプローチ」や「真正の学習」理論のもとで、抽象的なアカデミック・スキルを具体的でリアルな生活や仕事の現実に埋め戻して学ぶことが主張されている。ダブリン学区では、Life ChoiceでFHA/HERO(現在、オハイオ州ではFCCLA)<sup>13)</sup>の活動が行われ、さらに応用科学の中にあるOWE(Occupational Work Exploration)では、実際に地域に出て働いてみることになっている。また、Service Learningでは、ボランティア活動として、地域に出て活動する。アメリカでは家庭科教育の成立当初から実際に地域に出て働く体験が重視されてきたが、近年、アカデミック教科重視の中でこうした活動が形を変えて重視されると考えられる。

Service Learningについては、1993年に「連邦コミュニティサービス法」(National and Community Service Trust Act of 1993)が制定され、アカデミックな学習と現実を結びつけ、生徒が十分に組織化されたサービス活動に積極的に参加することを通して発達できるようにすることが推奨されている。しかしながら、選択科目とはいえ、ボランティア活動を単位化し、積極的に促すことについては、ボランティア活動の本来の意味に立ち返って慎重に検討することが必要であろう。ボランティアが、単純に卒業単位と交換されてはならないし、思想信条の問題もあるからである。ボランティア活動を体験する場合も、ただ体験するのではなく、ボランティア活動や非営利団体の意味や組織のあり方自体が学びの対象として位置づけられ、生徒たちにより(批判的に)検討されることが必要であろう。こうした視点の必要は、FHA/HEROやOWEなどの活動を行う場合についても同様である。また、危惧されてきたことであるが、これらのコースを低学力の生徒の受け皿と捉えられてはならないであろう。

最後に、ダブリン学区のコース一覧で気になる点について、述べておきたい。

一つは、1970年代から職業教育法などにより組み込まれてきたジェンダーの問題やセクシュアリティについてである<sup>14)</sup>。表6には、これらの視点がみられない。しかし、Workmanによると性別役割分業については、Family Livingで扱われ、職業上の性別役割固定の問題については、Life Choiceのクラスでも扱われるということであった。前掲のオハイオ州教育局の能力表*Ohio's Competency Analysis Profile: Work and Family Life*をみると、Family Livingの項目に「家

族の社会的・文化的多様性の重要性を分析する」「全家族員の権利、責任、期待を明確にする」などの記述とともに、「関係の中に存在するジェンダーへの期待や役割の区別を分析する」や「関係の中に存在する権力を分析する」などの記述、さらに子どもの虐待の記述もみられる<sup>15)</sup>。また、Life Choiceにはセクシュアリティの記述がみられる<sup>16)</sup>。セクシュアリティについて、ダブリン学区ではFamily Livingの「デートすること」などで扱われるかもしれないが、権利や権力の問題を明確に位置づけて、家族と仕事のあり方を探求することが求められる。

もう一つは、Family & Consumer Sciencesが、家庭という私的領域に限定することなく、地域・社会という公的領域に踏み込んで学習が展開されるかどうかについてである。表7のプロセス・スキルの欄をみると、こうした視点はオハイオ州教育局においては明確である。先の*Ohio's Competency Analysis Profile: Work and Family Life*をみると、6つの内容領域に関する能力においても、経済や政治など公的領域に踏み込む記述は多い。だが、後述するように実際の授業でどのように私的領域と公的領域の課題をつなげて検討できるかが課題となる。

## (2) ダブリン・サイオト・ハイスクールのFamily & Consumer Sciences コースの授業

ダブリン・サイオト・ハイスクールでは、1999年度は先の6つのコア領域に対応した、Life Choice(Personal DevelopmentとResource Management)、Family Living、Parenting and Child Development、On Your Own、Global Gourmetの6種類のクラスを3人の教師、Jennifer Workman、Amanda Canary、Christi Andrewsが担当していた。開講されていないコースがあるのはコースに登録した生徒が15人以上の場合に授業を開講できることや、家庭科教員の数などの事情によると推察される。

このようなFamily & Consumer Sciencesコースの開講の仕方は、一般的であると推察される<sup>17)</sup>。

Family & Consumer Sciencesのコースを受講する生徒は、1コースのみをとる生徒が全体の約25%、2つのコースをとる生徒は全体の約15%であるという。食物関係は人気があり、5クラス(約125人が受講する。Foods and FitnessとGlobal Gourmetが隔年で交互に開講されている。

Workmanによれば、この10年間で大きく変化した点は4つのプロセス・スキルが重視されたことと、「問い」で授業を進めるようになったことであるという。

そのため、一つには、授業でアクティビティが取り入れられたり、対話・討論を生徒たち自身が運営したりしていた。実際に授業を参観すると、授業にこれらの点が組み込まれていた。例えば、CanaryのFamily



Livingのクラスではあるグループが司会になってディスカッションを組織していたり、Life Choiceのクラスでは、意思決定の選択における葛藤状況をロールプレイングで体験するゲームが実施されていた。

他方、コミュニティでの活動については、FHA/HERO (FCCLA) が行われていたが、登録料が高いため、連邦レベル・州レベルの組織に加入せず、学校内だけで実施しているということであった。一月に一回のクラスに15人が参加して行われる。この活動は、Life Choice コースの一環として行われていると考えられる。しかし、サイオト・ハイスクールでは、Service Learning, Conflict Management and Mediation, Studies in Career Exploration など、コミュニティで実地体験する活動は、あまり実施されていなかった。新設のハイスクールで、大学進学準備に力が注がれているためと考えられる。

しかしながら、WorkmanのOn Your Ownのクラスでは、仕事の準備として、目標の設定(第1週)、キャリアについて調査と報告書づくり(第2週)、それに合わせた履歴書づくり(第3週)が行われていた。そこで、どのように労働が調査され、生徒たちによりその情報や仕事の価値観などが交流されたかが、問われるところであろう。

最後に、Global Gourmetの授業について検討しておこう。Global Gourmetは、生徒の多文化状況の進行に伴い、実施されていると考えられる。表6をみると、健康問題が少ない諸外国の食べ物や健康な暮らしを研究するコースであると記されている。主なトピックスは、諸外国の食物、ダイエット、調理記述、ライフスタイルである。また、環境問題に影響を及ぼす食物、テクノロジー、消費者の選択に関連する環境の課題が検討されることになっている。

ダブリン・サイオト・ハイスクールでは、Global Gourmetクラスは、生徒に人気がある。参観した授業では、中国料理が取り上げられ、チキン入りチャーハンと卵のスープの実習が行われていた。この後、アフリカ料理のクスクスを取り上げ、調理するということがあった。生徒は、楽しそうにやってきて調理をし、調理をしながら、「なぜ、中国の人は健康であるのか」という問いの答えを探す。

このコース設定の視点は、多様な文化を知る、という従来型の「中華料理をつくって食べよう!」を脱し、中華料理と自分たちの食物・調理文化とを比較し、共通点や差異を探し、自分たちの文化を相対化し、問い直す視点を有している。単に多文化をカリキュラムに組み込んだだけの多文化教育から、エスニック・マイノリティの食文化や暮らし方からマジョリティを問い直す多文化主義の契機がみられるからである<sup>10)</sup>。しかし、その視点が自分の健康という狭い健康概念に収斂されてはならないであろう。この点で、このコースが

如何なる世界を扱うのかが、問われる。例えば、世界の食糧問題へと発展させたり、京都議定書を離脱したアメリカだからこそ、地球環境問題へと発展させることが求められよう。

数時間のクラスを参観しただけではわからないが、具体的な授業の展開を垣間見た限りでは、社会的な視点をどのように組み込んで私的生活を考えていけるかが課題であると考えられる。

#### 4. Family & Consumer Sciences を取り巻く状況と課題

本報告では、オハイオ州のダブリン・サイオト・ハイスクールのFamily & Consumer Sciences Educationのコースの事例を見てきた。Family & Consumer Sciencesは、先に述べた学校の変容と無関係ではられない。最後に、標準能力テストの実施とアカデミック教科の重視の影響について、考察しておきたい。

ダブリン・サイオト・ハイスクールでは、近年の能力主義・管理主義のプレッシャーから逃れるために、Family & Consumer Sciencesのコースが選択されるという実態が指摘されていた。例えば、Family & Consumer Sciencesのコース選択について、「楽しさを求めて生徒がやってくる」(Workman)や「3年生になると、生徒は楽しみたいのでFamily & Consumer Sciencesのコースを選択する」(Smith)などの指摘がある。しかしながら、生徒の選択を単なる「楽しみ」、あるいは「楽しみたい」と見るべきではないであろう。そうではなく、生徒たちは、現実生活と関わって学ぶことを求めている、抽象的なアカデミック・スキルを具体的でリアルな生活や仕事の現実に埋め戻して学ぶことを求めていると捉えることが必要ではないだろうか。もし、過度の締め付けの反動であるとしても、そうした管理や学習のあり方が問われているのである。

そして、生徒が家庭科関連科目を選択するのは、オハイオ州で1990年代に「どのように教えるか」の研究に重点が置かれ、1980年代に既に着手されていた家庭科の内容と目的の転換が成果をあげてきたことと結びついているのではないだろうか。内容・目的・方法の転換とは、家庭で役立つ家事技能のあれこれの習得から、生徒の今に應える学びである。それは、具体的な作業や活動を伴った、今の自分と将来、暮らしと職業世界の探求である。

だとすれば、進学校であるダブリン・サイオト・ハイスクールにおいても、GRADSのコースを視野に入れて、自立に関わる探求、特にセクシュアリティや職業・労働世界を探求する学びを保障していくことが求められているのではないだろうか。また、生徒が生きる世界をリアルに探求でき、新たなあり方を共同で創造できるように、学びの中でジェンダー、グローバル化、地球規模の環境問題などの現代的・人類的課題に

具体的な現実から、つまり私的領域とされてきた個人・家族の生活から、どのようにアプローチするかが問われるであろう。新自由主義・新保守主義教育政策が進行する今だからこそ、アメリカでも日本でも、こうした生徒の期待に応える学びを家庭科の中でつくりだしていくことこそが重要であるといえよう。

## 註

- 1) 例えば、連邦教育長官諮問委員会「すぐれた教育に関する全国審議会」報告書「危機に立つ国家—教育改革への至上命令」(1983年4月26日)(橋爪貞雄著「危機に立つ国家」黎明書房, 1986年に所収)。そして、クリントン大統領は、1997年に教育を連邦政府の最重要課題として位置づける演説を行った(「アメリカ合州国大統領一般教書演説」1997年2月4日, 【諸外国の教育改革】ぎょうせい, 2000年に所収)。
- 2) 拙稿「オハイオ州における Family & Consumer Sciences Education の実施状況(第1報)—1988年度との比較を中心に—」愛知教育大学教育実践総合センター紀要第4号, 2001.3, pp.203~214。なお、米国職業教育法とオハイオ州の家庭科の取り組みについては、山田綾「米国職業教育法による『性の公正』の取り組み—1990年代のオハイオ州の場合—」愛知教育大学研究報告, 50(芸術・保健体育・家政・技術科学・創作編) pp.73~82, 2001.3を参照されたい。
- 3) アメリカ合州国では、教育のシステム、州教育局の統制は州によって異なっている。オハイオ州のは、全米の中でもローカル・コントロールの強い州として有名である。オハイオ州は最小規模の学区により、独自の学区単位組織をとっており、1998年度の地方学区数は612に及ぶ。
- 4) キャリアテクノロジーと成人教育部門キャリアの進路とサービス課 (Ohio Department of Education, Division of Career-Technology and Adult Education, Career Pathway & Services) のアシスタント・ディレクターである。
- 5) *DUBLIN COFFMAN AND DUBLIN SCIOTO HIGH SCHOOLS: Course and Career Planning Handbook 1999-2000*。
- 6) 今村令子「教育は「国家」を救えるか—質・均等・選択の自由—」東信道, 1987, p.115。
- 7) 前掲「危機に立つ国家」pp.62-63。
- 8) オハイオ州では、標準能力テストが、4, 6, 9, 12学年に課されている。内容は、英語、数学、作文、社会(公民)、科学である。それ故、職業教育プログラムにおいても、これらのアカデミック・スキルとの関係が求められている。標準テスト制度は移行期間中であり、2000年度には実施学年が4, 7, 10, 14学年に改訂されるということであった。
- 9) Work to Study については、西美恵「米国ハイスクールにおける職業教育とアカデミックな教育との統合—W.N. グラップの統合概念の分析を中心に—」(『カリキュラム研究』第8号, 1999, pp.87-100)を参照されたい。
- 10) Ohio Department of Education, Division of Vocational and Adult Education, Family & Consumer Sciences, *Work And Studies: An implementation handbook for administrators and teachers*, 1998, p.1.
- 11) 1990年代に、オハイオ州では Competency が開発され、冊子 *Ohio's Competency Analysis Profile: Work and Family Life* が発刊されている。Enright 氏によれば、この10年間の大きな変化は、以下の3点であったと述べている。一つは、1988年から1990年代の半ばまで、教育の責任が果たされた

- かどうかを明らかにするために、competency(能力)アプローチにより、ハイスクールとミドルスクールで必要とされる competency を明らかにしたことである。二つには、competencyに基づいて、リソースガイドを開発したことである。三つには、90年代末に始まったところであるが、ナショナル・スタンダードを参考に、スタンダードの開発を行っている。参考にされているナショナルスタンダードは2種類あり、一つは Family & Consumer Sciences のスタンダードであり、もう一つは各職業専門分野で開発されているスタンダードである。両者はいずれも、子どもの学力低下の指摘や、労働世界の変化により、洗練された能力が求められ、教育の責任(accountability)が問われ、評価を明確にするために開発されたものである。
- 12) 前掲「米国ハイスクールにおける職業教育とアカデミックな教育との統合」。
  - 13) FCCLA は、これまでの FHA/HERO の州組織である。全米組織は、現在なお FHA/HERO と呼ばれているが、オハイオ州では Future Homemakers of America という名称が適切ではないと判断し、州レベルの組織名を改正したということである。
  - 14) 前掲「米国職業教育法による「性の公正」の取り組み—1990年代のオハイオ州の場合—」並びに拙稿「ジェンダー教育プログラムの展開とバックラッシュ—アメリカの職業教育法(1976-1998年)を中心に—」東海ジェンダー研究所「ジェンダー研究」第4号, 2001.12, pp.12-19。
  - 15) *Ohio's Competency Analysis Profile: Work and Family Life*, op.cit., p.14, 15, 18.
  - 16) *Ibid.*, P.3.
  - 17) 例えば、オハイオ州の Worthington High School では、「家族・消費者科学」「食物とフィットネス」「子どもの発達/ペアレンティング」「自立した生活」「生活の選択」「メンターシッププログラム」「健康的な料理」のコースが開講されていることが報告されている。川崎智恵・林未知子「ウィスコンシン州・オハイオ州・ミネソタ州の家庭科教育視察報告(3)—ハイスクールを中心に—」家庭科教育75巻4号, 2001, P.12。
  - 18) デイヴィッド・セルビー「多文化社会における教育」浅野誠・デイヴィッド・セルビー編『グローバル教育からの提案』日本評論社, 2002, pp.40-58。

(平成14年9月11日受理)